



12

2014 December

No.509

地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人權と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

第18回人吉医療センター研究発表会開催



シンポジウム



講演：JCHO 中村重郎 理事



一般演題

平成26年12月13日（土）人吉市カルチャーパレスにおきまして第18回研究発表会が開催されました。

今回は、院内からの9演題に加え、外部の医療機関や福祉機関をお招きし、「これからの人吉・球磨における地域包括ケア」をテーマにシンポジウムを行い、最後に「次世代の病院情報システム」と題してJCHOの中村重郎理事よりご講演いただきました。

シンポジウムでは、球磨地域在宅医療連携体制検討委員会 外山裕二会長、人吉・球磨在宅ドクターネット 岩井顯理事長、球磨圏域介護支援専門員協会 尾方洋平会長、熊本県訪問看護ステーション連絡協議会 人吉球磨ブロック 入江祐公様、人吉医療センター 西村卓祐緩和ケアセンター長から在宅医療、介護の現状、事業やネットワークの立上げ等ご報告いただき、パネルディスカッションでは、在宅医療を展開していく上での看護、介護の現状や課題が出され、そのことに対して医療、看護、介護のお互いの連携が必要であることなど各分野の視点から地域の包括ケアに向けた活かな討論となりました。

院内の発表では検査室から4題をエントリーしまし

た。検査室から4題も出せる日が来るとは正直思いませんでした。無事研究発表会を終えることができ心地よい満足感を味わっています。

以前の検査室は、よく言えば真面目でおとなしい、悪く言えば何をやっているのか分からないと言われていたようです。でも、「実はこんなに頑張ってます！」と発信しようと企画し、早い段階から若手技師の生島さんに細菌についての発表を依頼し、締切が迫った時期に中堅技師の濱津さんと吉田さんに若手の牽引者となるべく発表を依頼しました。

今後は、全員でローテーションを組んで、各部門から検査に関する演題を、プランニングチームから改善についての演題を出していけたらと考えています。

その次の目標は、県・九州・全国の学会に発表できるようにレベルアップを目指していきたいと思っています。

今回の発表に力を貸していただいたCRCの岩崎さんに感謝いたします。

臨床検査部 臨床検査技師長 阪本 裕子

人吉医療センターモニター会議より提言書

去る、11月27日（木）人吉旅館に於いて、モニター委員7名、当院職員8名が同席する中、モニター会議大瀬敏克会長より木村院長へ提言書が手渡されました。

提言書は、9名のモニター委員によって取りまとめられたもので、「地域とともに」を理念とし、地域住民からより信頼され、充実した医療センターの運営がなされるようにと基本提言を受けました。さらに、具体提言とし、施設・設備について、医療施設及び医療技術の充実について、「地域協力会」や「地域医療支援委員会」等地域連携について、防災及び防犯等について、医療事故等の防

止について、その他の7項目についてご意見をいただき、多くは「申し分ない」との意見でした。

最後は、「地域における中核的病院として全国のモデルとなるような充実した病院となることを期待したい」と結ばれており、益々身の引き締まる想いでした。



総務企画課 谷口 純子

日本医療マネジメント学会 第8回宮崎県支部学術大会

12月6日（土）に宮崎市で行われたこの大会は「広げよう職種間連携とチーム医療～医療人としての和の心～」をテーマに、一般演題27題、クリティカルパス8題の発表が行われました。

宮崎の地方大会への人吉からの参加は、本学術集会会長であるJCHO 宮崎江南病院 院長の白尾一定先生と当院の木村正美院長との「ホットライン」で実現したものです。

当院からは演題2題の発表と講演を行いました。ランチョンセミナーでは木村正美院長が「南九州3県県境地域の医療連携～がん診療を中心に～」と題して講演を、医事課の久保田智子診療情報管理士より「地域包括ケアにおける当院の役割」、薬剤科からは嘉村が「薬剤師外来開設後

1か月のまとめと今後の展望」とそれぞれ題して発表を行いました。

平成27年11月20、21日には日本医療マネジメント学会第14回九州・山口連合大会がここ人吉市のカルチャーパレス・スポーツパレスにおいて行われます。多くの参加と発表で大会を盛り上げましょう。



筆者：左

薬剤科 嘉村 基樹

薬剤師はいかにして チーム医療に貢献するか

私は2008年8月に人吉総合病院（当時）へ赴任しましたが、当時の薬剤部は3名の薬剤師と3名の調剤助手により運営されておりました。

200名近い入院患者の処方監査、調剤、監査を行うことが主な仕事であり、病院機能評価受審で必要とされた化学療法の混注などは手つかずの状態でした。薬剤師の数が絶対的に不足していました。

ところで、1988年頃から「医薬分業」として外来は院外処方せん発行へ、そして病院勤務薬剤師は病棟業務へと業務が分担化されて25年以上が経過しました。「医薬分業」とは院外処方せんを発行し外来の調剤を保険薬局へ移行することと勘違いされておられる方が多いのではないのでしょうか？そもそも「医薬分業」は1240年神聖ローマ帝国フリードリッヒ2世が公布した「5か条の医薬令」において医師が調剤することを禁止し、薬剤師に



処方チェックを行わせることから始まります。皇帝が毒殺を防ぐために導入した法律と言われています。このように「医薬分業」は薬剤師による薬物療法の安全確保を第一とし、適切な薬物療法ができ

るよう支援することに本質があります。この観点からチーム医療への貢献を模索した6年間でした。病棟へ直接出かけることから始め、持参薬の管理もほぼ看護師が行っていた状態から薬剤師が管理するよう業務を改革しました。特に高齢者は複数医療機関から多くの薬剤を処方され、加齢に伴う臓器機能低下により安全性を確保する上では薬剤師の関与は非常に重要となります。熊本県内で人吉総合病院の取り組みや問題点を広め、大学の教授等への働きかけを行い薬剤師も徐々に増え、本年度は11名（来年は2名増加予定）が勤務しております。

病院勤務希望の薬学生はよく、病院は多職種がいてチーム医療ができるからと答えます。

しかし、チーム医療とは病院の中だけでなく地域全体で患者の一生を通じて個々の専門職が連携することと考えています。2013年からは病棟に薬剤師を常駐させました。そして次の段階としては「医薬分業」と称して病院薬剤師の業務が入院患者へシフトしたことを元に戻すことに取り組み、薬剤師外来を本年から開始しました。

薬剤師外来では外来患者の薬物療法の支援を行い、将来的には退院後も外来で薬物療法が継続できるように保険薬局薬剤師との連携窓口となるようにすることです。また、安全性の確保としては処方せんに検査データを添付し保険薬局の薬剤師が処方監査において安全性を確保できるようにしました。これからも薬剤師として地域の皆さまが喜んでいただける支援を行っていきます。

薬剤科長 福島 ゆかり

人吉医療センターフェスティバル vol.7

11月30日（日）10：00より今回で7回目となる人吉医療センターフェスティバルが開催されました。「もっと知ろう人吉医療センター～これからの地域医療のために～」をテーマに幕を開け、約420名の来場者がありました。

屋外ではフードコーナーを設け、地域協会のカレー、当院OB 中村末太郎さんの焼き芋、開のうどん、人吉シルバー人材センターの野菜販売や「どぎゃんか先番隊」など多くの店舗を展開していただきました。また、ステージでは人吉第一中学校のブラスバンド部による演奏、wontanaraによるジャンベ演奏、餅つき、抽選会が行われ、みなさん迫力ある演奏に聞き入っていました。

そして屋内では、3階で「がん治療と緩和医療」「地域の社会資源紹介」という内容で外部からもゲストをお招きして市民公開講座を開催し、約50名の来場者があり、熱心に公聴されていました。1、2階ではぬり絵の展示、DMAT紹介、病院見学ツアー、各部署による展示・体験、バザーなど行い、来場された方は興味深そうに回られていました。

残念ながら当日は雨が降り、寒い一日となりましたが、多くの方にご来場いただき、盛会のうちに終了することができました。ご来場いただきました方々、フェスティバルの開催にご協力いただいた方々、誠にあり



がとうございました。これからも当院を知ってもらい、地域の方々との触れ合いを大事にし、地域に貢献できるよう尽力していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願い致します。

人吉医療センターフェスティバル実行委員 金栗 由佳

認定看護師活動報告 Vol.3

当院救急外来は、人吉球磨地区の救急患者のみならず、県境のえびの小林地区、大口伊佐地区からも受け入れており、医療圏が広いのが特徴といえます。また、救急車搬入だけではなく、各医療機関や施設からの急病者に対しても救急外来で対応しています。救急患者数は、平成25年の救急搬入（救急車・病院車）2461台、ドクターヘリ9機、ウォークイン4050人、合計6520件、平成26年11月現在救急搬入（救急車・病院車）2505台、ドクターヘリ9機、ウォークイン4219人、合計6733件と年々増加傾向にあり、当院の担う役割の大きさを実感しています。

現在2名の救急看護認定看護師が在籍し、救急外来専属で勤務しています。救急看護の特徴には、「緊急度の判断」・「総合的な観察とすばやい評価」・「変化に応じた看護実践」など、看護師自身の判断が重要になる場面が多々あります。私たちは認定看護師として、根拠を持ったアセスメントを基に看護実践を行い、その思考過程を他のスタッフと共有・指導することを意識しています。また、今年度は高機能シミュレーターが導入されました。今後はシミュレーション教育を通



じて、「根拠を持ったアセスメントからその実践」を目標に研修を実施する予定です。

複雑化する医療、ドクターヘリ・ドクターカーなどの病院前治療、救命士の役割拡大など、救急医療が目まぐるしく変化しています。地域の救急医療の一翼を担うものとして、日々研鑽していきたいと思います。

最後に、救急外来のユニフォームを作成しました。これを着て、一緒に働きませんか？救急医療に携わる責任とやりがいを背負い、救急医療の質をあげていきましょう！！

救急看護認定看護師 杉松 幸太郎

ビーチボールバレー大会

11月21日（金）に恒例のビーチボール大会が開催されました。今回は以下の結果となりました。

- 優勝「要介護5」（8階病棟）
- 準優勝「人吉エリキテル外科連合B」（7階病棟）
- 3位「ルネスタ」（5階西病棟）

～「優勝」チーム喜びの声～

みなさん、ビーチボール大会はお疲れ様でした。今回我がチームは、その名の通り老体に鞭打って全5試合を頑張り、念願の優勝を勝ち取ることができました。病院全体を敵に回していることをヒシヒシと感じ、完全アウェイの雰囲気の中ではありましたが、この11年間で優勝はもちろん予選突破も出来ていなかったのが、医療センターの巨塔Dr. 荻がチームに入ってくださることになり（コート

に入っているだけで反則っぽいです（が）、これは最初で最後のチャンスと思い、放射線技師長の丸尾さんの力も借り、そこに我々美魔女3人のエキスをプラスすることで完璧な試合をすることができました。もう、思い残すことはありません。また、西村卓祐Dr率いる「要介護4」チームも1勝することができ、本当に良かったです。これも忙しい中かけつけてくれたスタッフの応援のおかげと感謝します。そして、この大会の運営に携わって頂いた方たちにも感謝したいと思います。みなさんありがとうございました。

8階病棟看護師 丸山 愛子



クリスマスコンサート

12月17日（水） 当院の3階講堂にて平成音楽大学の方をお迎えし、クリスマスコンサートを開催しました。医療関係者を含む多くの皆様に癒しの時間を過ごしていただきたと、個人のご厚意により実現しました。

しんと初雪の降る寒い中、会場には入院中の方を中心にたくさんの方に足を運んでいただきました。

初めのステージで、当院のコーラス部は今年大ヒットした映画「アナと雪の女王」から Let It Go ～ありのままで～ など3曲を歌いました。少ない練習時間の中、形にしていきましたが平成音楽大学の方に合唱良かったですよと言葉をいただき嬉しかったです。

次のステージでは平成音楽大学の音楽療法専門スタッフと学生の3名の方に、歌や演奏を披露していただきました。音楽療法には、能動的音楽療法と受動的音楽療法2種類あり、今回両方の音楽療法の体験ができました。



能動的音楽療法として会場の皆様全員が参加し、楽器を演奏したり歌ったりしながら体を動かしました。受動的音楽療法として、学生の方のフルートの演奏や専門スタッフの方が扮する「美空ひばり」ならぬ、芸名「美空すずめ」さんに、美しい演奏や歌を披露していただきました。会場一体が和やかな雰囲気となり、とても楽しく、癒しの時間を過ごしました。

コーラス部 診療放射線技師 木戸口 愛美

第6回 人吉医療センター緩和ケア研修会

12月6・7日（土日）、当院3階講堂にて第6回緩和ケア研修会を開催いたしました。

この研修会は、がん対策基本法に基づくがん対策推進基本計画における「すべてのがん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」（厚生労働省通知）に則り、がん診療に携わるスタッフが研修等によって緩和ケアについての基本的な知識を習得し、がん治療の初期段階から緩和ケアまでが提供されることを目的として開催されます。当院はがん診療連携拠点病院として毎年開催することとなっており、参加者にとっても、麻薬処方に関する施設基準にもなる研修会です。

国立がん研究センター及び日本緩和医療学会主催の指導者研修会修了者であるファシリテーターを、熊本大学付属病院や熊本赤十字病院、熊本市市民病院、熊本労災病院などから招き、今回は、人吉市・球磨郡・熊本市から医師・看護師ら17名の受講生の参加がありました。スタッフも緩和ケア委員会から13名のお手伝いを頂きました。

研修は2日間にわたり、「緩和ケアとは」という概論からオピオイド導入の方法、呼吸困難・消化器症状・精神症

状に関する講義、コミュニケーション能力の向上を目的とした告知に関するロールプレイ、更には地域包括ケア・社会資源についての講義・グループワークが行われました。

参加者からは、「看護師にも理解しやすく、他職種と話せるなど貴重な機会となった」「ロールプレイで医師の思い・患者の思いを体験できてよかった」「職種に関係なく、楽しく学べた。今後活かしていきたい」「在宅緩和や薬物療法について勉強になった」「相手を思いやる大切さがわかった」など肯定的な感想を頂きました。

この研修会は、特に初期臨床研修2年目から修了後3年目までの医師へ参加を呼び掛けることも要件となっていますが、看護師、コメディカルの方も多く受講し、業務に活かしているようです。今回参加できなかった方も、来年は是非ご参加ください。

医療福祉連携室・がん相談支援センター 南 秀明



医療安全研修会

12月8日から3日間にわたり、当院3階講堂において医療安全研修会が開催されました。

今回の研修は、「KYT：危機予知トレーニングとKYK：危機予知活動」についてでした。

一つの重大な医療事故の陰には、多くの軽微なインシデントやヒヤリハットが存在します。このインシデント・ヒヤリハットの段階で対策を講じ、重大な事故が起こる前に安全確保することが重要です。この研修で潜在的な危険を予知することの大切さ、そして職場の中でその対策を全員で考え組織として意識を高めていくことの重要性を再認識しました。また、グループワークの中で、様々な場面に潜在する危険因子を出し合い検討する作業を行い、自分の危険に対する感受性が高まっていくのを実感できました。同時に自分とは異なった視点や観点で聞くことができ参考

になりました。「人間はミスをおかす」という特性があるため、私たちの病棟でも日頃の業務の中で危険予知トレーニングを行い、危険予知活動に取り組んでいく必要があると強く感じました。それを積み重ねていく中でスタッフ一人ひとりの問題解決能力の向上と、実践への意欲・集中力を高めることにつながっていくと思いました。今後、病棟でも「KYT・KYK」の勉強会を開催し、さらにチームワークの強化を図り、安全意識の高い病棟になるように、医療安全推進委員として取り組んでいきたいと思っています。



9階病棟看護師 内田 桃香

ご存知ですか ～医療費の自己負担限度額が変わります(70歳未満の方)～

医療費が高額になりそうとき、「限度額適用認定証」を医療機関に提示することで、一ヶ月の医療費の支払いが自己負担限度額までとなる制度があります。自己負担額は前年中の世帯の所得に応じて適用区分が決まっていますが、平成27年度1月から、70歳未満の方の医療費の自己負担限度額が変わります。今回の改正により適用区分が細分化され、70歳未満の方の適用区分が下表のとおり3つの区分(A、B、C)から、5つの新区分(ア、イ、ウ、エ、オ)に変更となります。(※ 下記表に保険外の料金(食事・差額ベッド代等)は含まれません)

平成26年12月まで

所得区分	負担限度額(医療費)
A：上位所得者	約16～17万円
B：一般所得者	約8～9万円
C：住民税非課税	35,400円



平成27年1月から

所得区分	負担限度額(医療費)
ア：標準月額報酬83万円以上	約25万～26万円
イ：標準月額報酬53万～79万円	約16万～17万円
ウ：標準月額報酬28万～50万円	約8万～9万円
エ：標準月額報酬26万円以下	57,600円
オ：非課税世帯	35,400円

※手続き方法：限度額適用認定証の交付は、各保険者にてお手続きください。

(申請交付窓口) 国民健康保険：市町村役場、社会保険：全国健康保険協会 各支部、組合・共済：各事業所

(相談窓口) 人吉医療センター 相談支援センター / Tel：0966-22-2191 (内線240)

ひまわり会開催～アロマセラピーでリフレッシュ～

11月21日 当院研修室においてひまわり会(乳癌患者会)を開催いたしました。

今回は14名の方にご参加いただきアロマセラピーでリフレッシュしていただくことを目的として、バスソルトを作成しました。

アロマの資格を取得されている当院の川口ゆき看護師を講師に迎え、香りが心身に作用するメカニズムから、エッセンシャルオイル毎の効能をわかりやすく、詳しく教えてもらいました。

その後、さわやかで心を落ち着かせる効能のラベンダーオイルとリラックスタイムの室内芳香に最適なオレンジスイートをブレンドし、ミネラルソルトとあわせたバスソルトを作成しました。

これからの寒い時期、お風呂で身体を暖め、香りで心身のリラックスができるバスソルトはお勧めです。楽しくてためになる、そんな勉強会をこれからも患者さんとともに開催していきたいと思っています。持ち込み企画も大歓迎です。何かございましたら相談支援センターまでご連絡ください。

相談支援センター 社会福祉士 岡本 理恵



【バスソルトレシピ】

<材料>

- ・ミネラルソルト 40g
- ・エッセンシャルオイル(ラベンダー4滴+オレンジスイート2滴)

<作り方>

ミネラルソルトにエッセンシャルオイルを入れてよくかき混ぜます。入れ物に作った日付・ブレンドしたエッセンシャルオイルの名前を書いたシールを貼りましょう。

<保存>

冷暗所で保存してください1ヶ月を目安に使い切りましょう。

笑って健康促進！
第107回 翔会開催！

平成二十六年十一月開催分の句をご紹介します。
どうぞ鑑賞下さい。

川柳句会「翔」平成二十六年十一月分

- ストレスは焼酎によく溶けますネ 比呂志
- 押入れの奥に昭和が生きていた 比呂志
- お泊りにベットの客も連れてくる 佐津子
- 五人組テレビの嵐素敵だね（大好き） 佐津子
- 終戦で笑う門にはラッキーカムカム 健三郎
- 野良犬を家族と呼んだ空襲時 健三郎
- 夕日さす居間でうとつと友見てた レイ
- どここの犬突然庭でしつぽふる レイ
- ねこちゃんの自由気ままがいいのよね 智子
- 温泉につかるカビバラにいやされる 智子
- 犬散歩今朝も元気で早歩き 保義
- 子犬達廊下で大の字寝そべって 保義
- 老猫ははやりの風邪で医者通い カツ子
- 我が家にもボジョレーヌーボーがやってきた カツ子
- 犬猫の公衆トイレあればよい 緋紗
- ベットからいたわられつつ生きている 緋紗
- 私には手遅れなのか美肌の湯 圭子
- 平成の綱吉さまの多いこと 圭子

次回も第四木曜日に本館二階図書室で開催致します。ご自由にご参加下さい。
投稿のみの参加もできます。院内設置の投稿箱にご投稿下さい。

JCHO 南海医療センター来訪

11月17日（月）JCHO 南海医療センターより8名のスタッフの方々が当院に来訪されました。

南海病院は当院と同様に独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）グループの病院であり、平成26年4月より南海医療センターと名前を変え、当院とは年に1回は球技大会等を開催し、交流を深めています。

当日はカテ室などの設備やヘリポート、病棟見学を行っていただきました。



総親会忘年会

12月13日（土）研究発表会後、あゆの里にて忘年会が開催されました。今回、開催時間が遅れましたこと深くお詫び申し上げます。

田中 信孝 人吉市長の挨拶に始まり、毎年恒例の各部署新入職員による出し物が披露され、大変な盛り上がりとなりました。今回は感染面（インフルエンザ）に配慮し、一部自粛した会となりました。

今年も色々な方々にお世話になり、厚く御礼申し上げます。来年も何卒宜しくお願いいたします。



12月のフレッシュマンセミナー報告

- 12/11 立開 光義「家を建てる際に困ったこと」
- 12/18 平生 愛「猫の気持ち」

新 任 紹 介



おおやま
大山 ありさ（外来クラーク）
最終卒業校：鹿児島県立短期大学
趣味：雑貨のハンドメイド、旅行

生活信条：笑顔で楽しむ
自分の性格：心配性
自分のコマーシャル：丁寧な作業を心がけ、精一杯頑張ります。よろしくお願いします。



いけだ はるな
池田 春奈（外来クラーク）
最終卒業校：神村学園高等部看護学科
趣味：手芸
自分の性格：マイペース

自分のコマーシャル：初めての職種で不安もありますが、頑張りますのでよろしくお願いします。

12月の勉強会報告

12月11日（木）第72回人吉乳腺カンファレンス

「リンパ浮腫について」

人吉医療センター 外科 下川 恭弘 副院長

「リンパ浮腫の治療効果と実際」

人吉医療センター リンパ浮腫指導技能者

看護科長 上野 明美

12月16日（火）第7回心臓血管疾患医療連携カンファレンス

「心疾患地域連携パスについて」

人吉医療センター 社会福祉士 金栗 由佳

「2014年上半期の急性冠症候群の現状」

人吉医療センター 循環器内科部長 中村 伸一 先生

「深部静脈血栓症について～ハンズオンによるエコー実演～」

人吉医療センター 循環器内科 六反田 拓 先生

同上 臨床検査技師長 阪本 裕子

